

地域のみなさまとともに

SDGsへの取り組み

当行は、創業以来「地域社会の繁栄に奉仕する」を経営理念に掲げ、地域の産業育成や環境問題への取り組みなど、地域社会の発展を念頭においた企業活動をさまざまな形でこなってまいりました。

2015年に国連サミットにて「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択され、社会的な関心が高まる中、地域社会の一員としての役割を引き続き果たしてまいります。

《「SDGs」とは》

「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」として先進国を含む国際社会全体の開発目標として、2030年までに達成を目指す17の目標と169のターゲットが2015年9月に国連サミットにて採択されました。

本誌において、17の目標と関連する当行の取り組みには、該当する項目を表示しております。

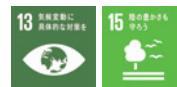


環境問題への取り組み

当行では、「環境方針」や「第三次環境プラン」を定め、環境に配慮した営業活動をおこなっております。また、森林整備活動などの環境保全活動にも積極的に取り組んでおります。

● 京都銀行の森林整備・育成活動

「京銀ふるさとの森」(京都市西京区の当行嵐山グラウンド内)、「京銀まなびの森」(京都銀行 金融中学校 桂川キャンパス内)での育成活動や、「京銀ふれあいの森」(京都市北区の本山国有林内)での整備活動に取り組んでおります。



力をあわせて作業

間伐材でベンチも作りました



地域社会・ステークホルダーへの取り組み

地域金融機関として、地域社会に密着したさまざまな事業活動を推進しております。

●「放ち鵜飼」プロジェクトを支援

宇治市の観光産業振興の取り組みとして、「宇治川の鵜飼」において、現在では途絶えてしまった綱を付けない「放ち鵜飼」を復活させるための、クラウドファンディングプロジェクト組成の支援をおこないました。



「宇治川の鵜飼」

平安時代にすでにおこなわれていたとされる歴史と伝統ある漁法で、宇治の夏の風物詩として親しまれております。

「放ち鵜飼」

日本初となる人工ふ化によるウミウ(海鵜)を使い、国内で途絶えた追い綱(鵜飼の際に鵜匠と鵜を繋ぐ綱)を使用しない鵜飼の復活を目指しております。綱を付ける通常の鵜飼よりもさらに鵜と鵜匠の信頼関係が大切になります。

● 寄付型ローンの取り扱い拡大

当行がお客さまから受け取る金利収入の一部を、京都府・大阪府の地域創生・地方創生に関わる事業に寄付する「京銀寄付型ローン」を取り扱っております。2018年6月には対象を滋賀県にも拡大しました。

本商品を通じて当行と地域のお客さまが一体となって、地域経済の活性化に貢献してまいります。

